

## 子ども論語塾

札幌市内に、寺子屋・こども論語塾が開かれています。

この論語塾を主宰されているのは、40年間市内で高校教員を勤められ、2007年に定年退職された新田修先生です。

先日、市内の北大寺というお寺の本堂で開催された論語塾を見学させていただきました。

習いに来ている子どもたちは、小学生からまだ幼稚園にも行っていないと思われる子ども達まで30名近くいたと思います。また、保護者の方々も同伴しておりましたから、全体の参加者も70名を超え、大変盛況でした。

最初に、ご住職から座禅の仕方を習い、悪戦苦闘しながら座禅にチャレンジしている子どもたちの姿には微笑ましいものがありました。

新田先生が論語塾の開設に踏み切ったのには、児童虐待の悲劇をはじめ、いじめ、引きこもり、少年犯罪などが後を絶たず、大きな社会問題となっておりますが、このような暗い事件が続発するのは「親」と「子」の間に何かが見失われつつあるためではないか。その何かとは、道德教育の欠如に他ならない、という危機感があつたからではないかと思います。

新田先生は、人としての規範意識が崩壊しかけている今日、他人を思いやる心ある人間の育成が求められており、今一度、生きることの原点に立ち返って考えてみたいと述べていらっしゃいます。

論語塾では、素読が中心で、まず先生が論語の一節を朗唱し、その後を子どもたちが同じように朗唱していきます。

意味するところは、先生の方から簡単に説明があります。しかし、先生のお話を理解できる子は殆どいないと思います。

もっとも、素読という勉強方法はそれで良いのだと思います。

論語にある珠玉の言葉の数々は、声に出して読んでいく、このことを繰り返していくことによって、身体全体に染みこんでいくことでしょう。

子どもが成長し、人生の岐路に立った時「子どもの頃に教わったことはこういうことだったのか」と視界がさっと広がっていく。今、論語塾で学ぶ子どもたちには、将来そのような経験をすることがきっとあるに違いないと思います。

初めは、恥ずかしげに小さな声で論語を読んでいた子どもたちが、短い時間の中にもかかわらず、姿勢を正し、大きな声を出して「朗唱」する変化が印象的でした。（塾頭 吉田 洋一）